

こころの健康度・生活習慣に関する調査 相談先に関連する避難者等の特徴について

1. 相談先の有無における避難者等の特徴

平成28年度調査の16歳以上の回答者(区分:一般)32,699人を対象に分析した結果、相談先がない人は11.2%で、全般的精神健康度の悪さと問題飲酒を有した避難者の割合が高いことがわかりました。多変量解析の結果、相談先がないことは、40～64歳、男性、経済状況の悪さ、一人暮らしと関連していました。相談先を持っておくことがメンタルヘルスの安定に大きく寄与していることが明らかとなりました。

図1 相談先の有無別における特徴

	相談先がない人	相談先がある人	p値
全般的精神健康度 K6 (13点以上)	16.2%	5.6%	<0.001
問題飲酒 CAGE(2点以上)	21.5%	13.5%	<0.001

Horikoshi et.al., IJERPH, 2021, 18(19):10075.

2. 相談先として専門機関を選択した避難者等の特徴

これまでの「ここから調査」(区分:一般)の結果から、主な相談先は、①家族・親戚、②友人・知人、③内科・外科等の一般の医療機関、④市町村の相談窓口となります。第49回「県民健康調査」検討委員会においてご質問いただきました、相談先として専門機関(市町村、精神科等専門医療機関、ふくしま心のケアセンター)を選択した避難者等の特徴について、新たに令和2年度のデータを用いて解析を行いました。市町村相談窓口の平均年齢は高く、精神科等専門医療機関は、比較的年齢は若い結果となりました。また、ふくしま心のケアセンターは、精神科等専門医療機関と同等のレベルの精神健康度や問題飲酒、トラウマ反応の悪さを有した避難者等の相談先になっていることが明らかとなりました。

図2 令和2年度 相談先の専門機関別にみた回答者の特徴

	市町村相談窓口	心療内科・精神科等の医療機関	ふくしま心のケアセンター
平均年齢	71.5歳	64.5歳	69.4歳
問題飲酒 CAGE(2点以上)	11.6%	14.6%	16.6%
全般的精神健康度 K6 (13点以上)	2.9%	10.3%	7.6%
トラウマ反応 PCL-4(12点以上)	9.5%	14.4%	16.5%

※令和2年度県民健康調査「ここから調査」データを用いて新たに解析